


2013 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	法学部	身分	教授
氏名	高橋 薫 		
NAME			

1. 研究課題

(和文) フランス近世初期における心性のあり方

(英文)

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

(和文)

本研究の背後には半世紀余にわたって物理的・心理的に世界を動かしてきたパクス・アメリカーナの崩壊がある。新生中国や新生ロシアの新覇権主義とその反動である諸対立、部族社会が国家となったゆえに生じた部族間の殺戮と貧困、IS に代表される宗教的不寛容とその結果などは「近代・近世」の籬が外れたために発生した人類の危機の徴候であると思われる。そのような感触を背景に、本研究者は「現代」がはたして「近代・近世」の鬼子であるのかどうか、或は別の「近代・近世」がありえて、それに続く別の「現代」がありえたのではないかという信念を抱くにいたった。本研究はそのように実在した「近代・近世」の発端の心性や制度を丹念に分析し、それらの必然性と偶然性を辿ろうとしたものである。そのためにフランスの図書館や古文書館の文書に依拠せざるをえないのは当然だが、膨大過ぎて電子書籍やマイクロフィルム化されえない、またされたとしてもノートを取り切れない文書もある。本研究者が申請した『メルキユール・フランセ』は 17 世紀初頭から数十年にわたって年鑑として出版された、いわば近世ジャーナリズムの嚆矢とでも称すべき史料であり、それによって「近世」の誕生の必然性と偶然性を読み取ろうとした。かかる目的や作業は 40 余年にわたる本研究者とフランス 16 世紀の交わりの結末であり、残された人生の短さを考えるとどこまで進めることができるかはなほだ心もとない作業だが、中央大学にこの史料を遺すことによっていずれ来るべき若い研究者の役に立てばさいわいである。

(英文)

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

<p>【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)</p> <p>高橋薫「デュプレシ=モルネ『聖体論』「序文」のヴァリエント—きたるべき校訂版のために(3)— 一、『仏語仏文学研究』、第 47 号、21~76 ページ、中央大学仏語仏文学研究会、2015 年 2 月</p> <p>高橋薫「一七世紀初頭の『ラ・フランシヤード』(第一回)」、『人文研紀要』、第 79 号、1~39 ページ、中央大学人文科学研究所、2014 年 9 月</p>
<p>【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)</p>
<p>【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)</p> <p>高橋薫訳、エチエンヌ・パーキエ、『書簡集』、『フランス・ルネサンス文学集』「第一巻」所収、 白水社、2015 年 3 月</p> <p>高橋薫訳、アンリ・エチエンヌ、『ヘロドトス弁護』、『フランス・ルネサンス文学集』「第一巻」 所収、白水社、2015 年 3 月</p>
<p>【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)</p>